



二葉とこども

第20号

発行元：社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」

発行日：2015年12月10日

巻頭特集 第2回 いま、伝えたいこと

チャレンジしないリスクは大きい

児童養護施設の課題は、時々刻々と変化していきます。社会の変化を常に感じ取り、求められるものは何か、できることは何かということについて、仮説を立て、スピード感を持って実行し、検証して改善し続けることが大切です。必要であれば、制度化されていなくても試行をし、実績をもとに制度要求するのです。このように、ニーズに機敏に応じて、時代を先取りしていくためには、常に問題を放置しないで、その解決を考えることが欠かせません。

社会福祉法人二葉保育園では、来春に自立援助ホームを開設する準備を進めています。新しい施設

の立上げをやってみたいと名のりを上げた職員たちがこの法人のなかに居ます。また、二葉むさしが丘学園では、東京都の新規事業「定員内での一時保護枠の設定」の実施に向け、準備を進めています。グループホームを増設し、定員枠を増やしたうえで、その空いた本園の定員枠を活用して一時保護委託の推進を図るものです。

新しいことに挑戦する機会が生じたら、やるかやらないかを選択しなければなりません。チャレンジするリスクと、チャレンジしないというリスクがあります。事と次第によっては、最初で最後のチャンスもあります。チャレンジの機会を

やり過ぎてしまったら、得たかもしれない学びと経験を永遠に失います。ですから、チャンスがあれば、挑戦した方が良いと私は思います。

最初で最後のチャンスを自分で掴む、タイミングを逃がさないことが大切ではないでしょうか。たとえば、ほかの誰もやっていない仕事をやる、日本初の仕事に挑戦することです。制度外であったとしてもやる、または、新制度を真っ先にやることです。誰もやったことのないことをやることは、大きな財産にもなります。チャレンジしないリスクの方が大きいのです。

二葉むさしが丘学園
施設長 黒田 邦夫



新しい児童棟の完成を迎えて

このシルバーウィーク（9月の大型連休）に新しい児童棟への引越しが行われました。

二葉むさしが丘学園は平成22年度に東京都より民間委譲されて5年が経ち、委譲当初より改築に向けて準備を進めてきましたが、他の施設への見学や打合せも重ね、平成26年冬から改築工事が始まりました。そしていよいよ9月20日に児童棟の引越しとなりました。

当日は朝9時に子どもたちと職員が園庭に集合し、引越しについての流れを確認した後、そこに引越業者も加わっていよいよ作業開始となりました。引越先は同じ敷地に建つ新しい児童棟です。引越業者、職員、子どもたちがみんなで協力して荷物を運びました。二葉むさしが丘学園の本園を利用する子どもは現在60名で、一般の家庭を想定すると8軒分にもなります。これを一日引っ越すのですから、この日ばかりは子どもたちも気合が入って一生懸命でした。そのおかげで夕方5時頃にはほとんどの荷物を運び終えることができました。

この改築により、居室は二人部屋よりも一人部屋の割合が多くなりました。新しい児童棟では、それぞれの部屋の中で子どもたちが自分の荷物を整理したり、リビングなどの共用部分の整理を手伝ったり、とても忙しく疲れた一日だったものの、みんなどことなく嬉しそうでした。

施設の改築には多くの方々のご協力と多額の資金とエネルギーが必要です。基本設計を初めてから既に3年。どんなに打合せをしてもこれで完璧というものはありません。きっとこれは永遠のテーマなのではないかと感じています。

これから引き続き第二期の工事に入り、既存の児童棟の解体、管理棟・体育館の新築、そして平成28年夏には新管理棟・体育館の完成と引越を経て解体と進み、改築工事は平成28年12月末まで続きます。マラソンで言えば今はやっと折り返し地点が見えてきたかなといったところ。まだまだ長い道のりで、かかる苦労も多いのですが、その分楽しみでもあります。（二葉むさしが丘学園 事務主任 今村 摂）



二葉学園での「食」の重要性

二葉学園では食に関する方針で、「食事の目的は児童に成長・発育や健康の維持に必要な栄養を提供するほか、望ましい食生活を身に付けさせる上での教材としての役割や生活に潤いを与えるなどの役割を持っているとし、食卓自体、人の心を和ませコミュニケーションを交わす大切な場であると考え、より豊かな食生活を供与していくよう心掛ける。そのためには、学園で働く一人ひとりが食事を提供する目的や重要性などを十分に理解し進めることが基本になる。」と挙げています。

どうしてこのような方針を二葉学園で児童の支援のために挙げているかというと、施設に措置されてくる子どもの心理的状態へのケアの回復があるからです。不信感・孤立していく恐怖、不安、寂しさ、依存、怒り、期待することの放棄、気力の低下（抑うつ状態）などのさまざまな感情を抱えている心理状態の回復のためには「食べる」ことは、「生きる根源」というもっとも原始的な安心感を与えるということを念頭に置きながら、食事のメニュー・内容・食卓の雰囲気・清潔さ・食器への配慮、児童の食欲に対する配慮などを考えています。子どもたちの日常生活をより豊かにするために担当職員はどうしたらより良いのかを日々工夫し、努力をこれからも重ねていきたいです。

（二葉学園 養護主任 小林 治）

*お詫び：前号「二葉とこども 19 号」で二葉学園の執筆者に誤記がありました。正しくは、「二葉学園 栄養士 河合寛子」でした。この紙面を借りてお詫び申し上げます。



行事食での取り組み

二葉乳児院では月に一度利用している子どものお誕生日会が行われ、皆でお誕生日を祝っています。

お誕生日会の日、昼食に子どもたちが好きなものをたくさん取り入れた特別メニューを作っています。普段は家庭の雰囲気になづけるためにお茶碗やお椀を使っているのですが、お誕生日会の日にはランチ皿を使って、お子様ランチのように見た目にも楽しんでもらえるようにしています。

そして、その日の 15 時のおやつには手作りのデコレーションケーキを出しています。調乳室職員が一丸となって、使用する旬のフルーツやデコレーションの方法を考え、子どもたちの成長を祝いながら、美味しくここでも見た目にも楽しめるようなケーキを作っています。

二葉乳児院ではお誕生日以外にも一年を通して色々な行事を計画しています。食事、その行事にちなんだメニューを考えて作っています。旬の食材を使ったり、行事食を作ったりすることで、日本のゆたかな四季や日本食の伝統的な面も子どもたちに伝えていけるようにしています。そこから食の経験をどんどん広げていってほしいと思っています。

子どもたちが「食べる事」の喜びや楽しさを感じられるように、これからも栄養満点の美味しいごはんを作っていきたいと思っています。

（二葉乳児院 栄養士 田中 さやか）



野菜も子どもも大きくなーれ

さくら組（年中クラス）の担任の私は、この二葉南元保育園の卒園生であり、今年が一年目の新任保育士です。

先日年長・年中児はバスに乗って世田谷区方面に芋掘り遠足に行ってきました。私自身も園児だった頃、芋掘り遠足に行った楽しい思い出を今でも覚えています。子どもたちの顔が土で汚れるのも気にせず一生懸命リスの穴掘りのように芋掘りをしている姿は、自分もそうだったなあとはほほ笑ましくなりました。

広々とした畑に子どもたちは歓声を上げ、土の感触を味わったり、力強くしっかりと根付いた芋を必死に掘り起こすような経験は、都会ではなかなか味わう事が出来ない良い機会となったと思います。

この夏、園の屋上とフェンス脇にある畑でキュウリやブチトマトなどの野菜を育てました。みんなで種や苗を植えて、毎日お当番さんが水をあげました。太陽の光をたくさん浴びて日々大きくなる野菜の様子を見て、子どもたちも「早く食べたいね」と期待に胸を膨らませていました。収穫したものは給食室で調理してもらったり、家に持ち帰って食べてもらいました。苦手だった食材もみんなで育ててみんなで食べる事で「おいしい」と口にする子もいました。そんな子どもたちの姿にひとつの成長を感じました。

そして私も、子どもたちに関わる事を大事にし、一緒に成長していきたいと思っています。



（二葉南元町保育園 保育士 浦澤 康仁）

“食” への関心を深める課業

6 月、幼児クラスの子どもたちを対象に、“野菜の課業”を行いました。初夏の恒例行事で、夏野菜について知ってもらう良い機会となっています。今年度は、①野菜によって花や実のつくりの違いがあることを知る、②色々な野菜を見て、触って観察することで野菜に興味を持ち、食べる意欲に繋げる。以上の二つを目的として内容を進めました。

野菜のシルエットを提示し、花や野菜の色をヒントに何の野菜であるかを当てるクイズをし、園庭で育てている旬の野菜や、給食の下処理の手伝いをしてもらった野菜を例に挙げて、それぞれ一番美味しく頂ける時期“旬”があることを話しました。続けてたくさんの夏野菜に触れ、形や匂い、感触、切り口の様子など存分に観察してもらいました。一生懸命とうもろこしの皮を剥いたり、オクラの切り口を見て「お星さまの形だ〜!」と嬉しそうに観察したり、興味津々でした。最後はみんなで、きゅうりととうもろこしの丸かじり体験をしました。普段は野菜嫌いの子どもも「美味しい」と言って、頬張っている姿が印象的でした。

今回の課業を通して、子どもたちは大人が思っている以上に、たくさんの野菜を知っていることを知りました。野菜だけでなく普段口にしているさまざまな食材に興味を持ち、さらに“食”に関心を持ってくれると良いなと強く感じました。



（二葉くすのき保育園 栄養士 山田 里穂）

社会福祉法人二葉保育園 職員資質向上助成事業の取り組みについて

平成 26 年度から新たに創設した「職員資質向上助成事業」という取り組みがあります。この助成事業は、社会福祉法人二葉保育園（以下、二葉）に所属する全職員を対象に専門的な教育を自主的に受けること、または業務上必要な資格等を取得する際に、その費用の一部を助成することを目的にしたものです。財源は二葉の第二代理事長徳永恕（ゆき）先生の名前を冠とした「徳永恕記念基金」という二葉独自の資金です。

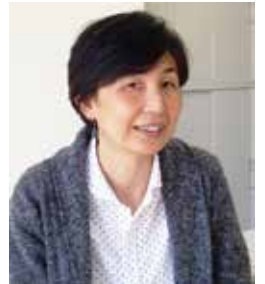
助成事業開始以来、2 年目を迎え、これまでに 5 名の職員が助成事業を利用しました。保育所勤務の保育士が幼稚園教諭免許を取得するために、乳児院勤務の保育士が社会福祉士の講座に通うために、児童養護施設の職員が専門職大学院で修士課程に進学するために、また臨床心理士が言語聴覚士の資格を取得するために、そのような向上意欲と目的を持った職員に合計で 150 万円ほどの助成をしてきました。

今後も資格取得もさることながら国内外の他施設で長期研修をする等も含めて、より良い保育や養護の実践のために、また息長く二葉で働いてもらうための学び直しやリフレッシュのためにも、職員の皆様にはこの助成事業をどんどん活用して頂くことを期待します。

法人本部事務局着任のごあいさつ

法人本部 事務局 西岡 千恵子

はじめまして。10 月 1 日より法人本部事務局に勤務することになりました西岡千恵子と申します。20 代半ばに児童養護施設で働きたいと希望したものの叶わなかったのですが、この度こちらで働くことになり願いがなかった気がします。



これまで、女性や高齢児童のためのシェルター（緊急一時保護施設）で働いていました。女性のシェルターは外国籍女性の利用が多かったこともあり、女性たちと生活を共にしたことで、常識や習慣は国籍、文化や家族によっても多様であることに気づきました。そして、一人ひとり大変な状況や課題を抱えていても、お互いを支えあい、言葉の違いや制度の困難さが分かっている、子どものために日本での生活を選択する強さに圧倒されました。

私自身もそうですが、私たちは日々、たくさんの人に助けられながら生きています。「助けられやすい人である。」それでいいのではないのでしょうか。

二葉保育園には、二葉乳児院、二葉南元保育園、二葉くすのき保育園、二葉学園、二葉むさしが丘学園にたくさん子どもたちが生活しています。子どもたちがこれから、たくさんの人々と出会い、たくさんの発見や経験をしてほしいと願います。

社会福祉法人二葉保育園では、施設の改築や子どもたちの養育、法人運営のサポートのために、「二葉支援の会」という後援会を運営しています。ご寄付は原則、年一口 5,000 円以上をお願いしておりますが、いくらでも歓迎いたします。一人でも多くの方にご支援頂きたく、ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★ 当法人へのご寄附は社会福祉事業への寄附として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置（寄附金控除）が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ ▶ 社会福祉法人二葉保育園 法人本部 電話 **03-3341-1205**（平日 10 時～17 時）
E-mail **info@futaba-yuka.or.jp**

郵便振替 口座番号 00120-2-30321 口座名義 社会福祉法人二葉保育園

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行 支店名：四谷支店 口座番号：普通 0506208 口座名義：（社福）二葉保育園 理事長 遠藤久江

クレジットカード 社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄附のお願い」ページからお手続き頂けます。

社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町 4 番地
TEL:03-3341-1205 / FAX:03-5368-1969
設立：1900 年（明治 33 年）
理事長：遠藤 久江
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、網野 武博、押切 重洋、福田 敏朗
監事：園 武友、乾川 日出夫

院長 都留 和光
児童定員 40 名 職員 51 名
住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 4 番地
TEL: 03-3359-4578 / FAX: 03-3359-4596

二葉学園

統括園長 武藤 素明 園長 小倉 要
児童定員 52 名 職員 51 名
住所 本園：
〒182-0035 東京都調布市上石原 2-17-7
TEL:042-482-2578/FAX:042-480-5200

二葉南元保育園

園長 工藤 有子
児童定員 61 名 職員 25 名
住所（仮園舎・四ツ谷園舎）：
〒160-0003 東京都新宿区本塩町 2
TEL:03-3351-3819/FAX:03-3357-3707

二葉くすのき保育園

園長 八木澤 真理子
児童定員 100 名 職員 35 名
住所：〒182-0022 東京都調布市国領町 3-8-15
都営くすのきアパート 1 号
TEL:042-487-8309/FAX:042-487-8309

二葉むさしが丘学園

統括園長 武藤 素明 園長 黒田 邦夫
児童定員 66 名（グループホーム 6 名含む）
職員 51 名
住所 本園：
〒187-0011 東京都小平市鈴木町 1-62-1
TEL:042-344-9911/FAX:042-345-7836